

令和2年度 第2回京都府入札制度等検討委員会 次 第

日時: 令和2年8月28日(金)

午前10時～午前11時半

場所: Web会議(建設交通部会議室)

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

(1) 令和元年度入札実施状況等について (資料1)

(2) 公契約大綱の見直しについて (資料2)

4 閉 会

京都府入札制度等検討委員会

委員名簿

令和2年3月11日時点

役職	委員名	現職	摘要
委員長	くすのき しげき 楠 茂樹	上智大学法科大学院教授	
委員	いしづ ともあき 石津 友啓	京都経営者協会専務理事	
	かわかつ たけし 川勝 健志	京都府立大学公共政策学部教授	
	たかはた じゆんこ 高畠 淳子	京都産業大学法学部教授	
	つねみね かずこ 常峰 和子	公認会計士	
	みたに しげる 三谷 茂	記者（元京都新聞論説委員）	
	やました のぶこ 山下 信子	弁護士	

任期：令和元年10月13日～令和3年10月12日

（敬称略、委員は五十音順）

3. (1) 令和元年度入札実施状況等について

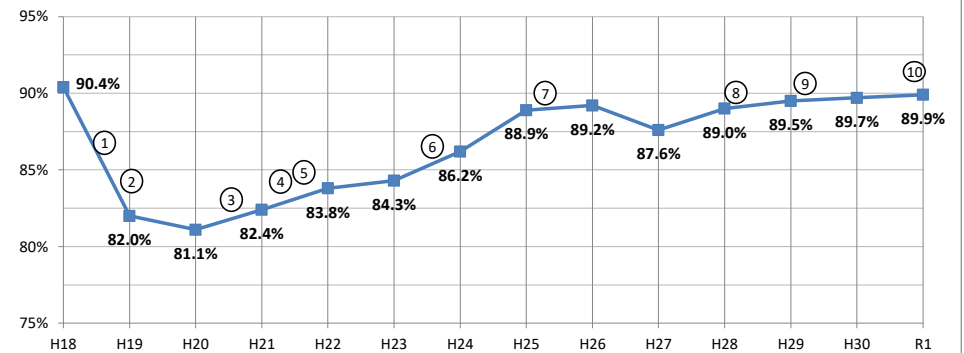
- ① 建設工事の入札状況の推移……………P1
- ② 予定価格の事後公表の試行状況……………P2
- ③ 入札の状況分析…………… P3
- ④ 測量等業務委託に係る最低制限価格設定後の入札状況……………P5
- ⑤ 発注類型別一覧表……………P6
- ⑥ 公契約大綱に係る元請下請関係適正化実施状況調査結果……………P7

建設工事の入札状況の推移

契約件数・平均落札率・平均参加者数 及び くじ引き・失格発生状況(競争入札に付した予定価格が250万円超の建設工事が対象(同期間内に契約したもの:紙入札を含む))

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度 (4~7月)	元年度 (8~11月)	元年度 (12~3月)	元年度
契約件数	1,842	1,625	1,564	1,706	1,487	1,316	1,307	1,530	1,329	1,237	1,197	1,084	1,195	351	496	390	1,237
平均落札率	90.4%	82.0%	81.1%	82.4%	83.8%	84.3%	86.2%	88.9%	89.2%	87.6%	89.0%	89.5%	89.7%	89.6%	90.3%	89.8%	89.9%
平均参加業者数	10.0	14.3	15.3	15.6	16.8	17.2	15.1	11.3	10.5	13.0	15.1	14.3	11.4	10.6	10.7	11.0	10.8
不調・不落発生件数 (発生率)	-	-	-	-	-	-	9 (0.7%)	64 (4.2%)	52 (3.9%)	5 (0.4%)	10 (0.8%)	11 (1.0%)	42 (3.5%)	17 (4.8%)	51 (10.3%)	20 (5.1%)	88 (7.1%)
くじ引き発生件数 (発生率)	23 (1.2%)	79 (4.9%)	167 (10.7%)	399 (23.4%)	466 (31.3%)	228 (17.3%)	158 (12.1%)	125 (8.2%)	118 (8.9%)	216 (17.5%)	406 (33.9%)	647 (59.7%)	643 (53.8%)	174 (49.6%)	224 (45.2%)	209 (53.6%)	607 (49.1%)
失格発生件数 (発生率)	123 (6.7%)	554 (34.1%)	690 (44.1%)	1,042 (61.1%)	970 (65.2%)	943 (71.7%)	882 (67.5%)	893 (58.4%)	754 (56.7%)	801 (64.8%)	834 (69.7%)	548 (50.6%)	389 (32.6%)	108 (30.8%)	144 (29.0%)	104 (26.7%)	356 (28.8%)
全者失格件数 (発生率)	-	-	-	-	-	3 (0.2%)	13 (1.5%)	25 (2.7%)	24 (3.2%)	10 (0.8%)	11 (0.9%)	10 (0.9%)	12 (1.0%)	4 (1.1%)	6 (1.2%)	3 (0.8%)	13 (1.1%)
公契約大綱に基づくダンピング対策等	①「京都市公共調達の改善の骨子(中間報告)」に基づく入札制度改革 H19.3 ② ア 一般競争入札を1千万円以上に拡大 応札可能者30者以上 H19.4 イ 指名競争入札の指名業者数の拡大(10者→20者)	③最低制限価格等の見直し H20.12	④最低制限価格設定対象工事の拡大 H21.7 ⑤最低制限価格等の見直し H22.1		⑥最低制限価格等の見直し H23.12	⑦最低制限価格等の見直し H25.5		※下線部については、諸経費率改定の影響	⑧最低制限価格等の見直し H28.4	⑨最低制限価格等の見直し H29.4							⑩最低制限価格等の見直し R1.5

平均落札率の推移



予定価格の事後公表の試行状況について

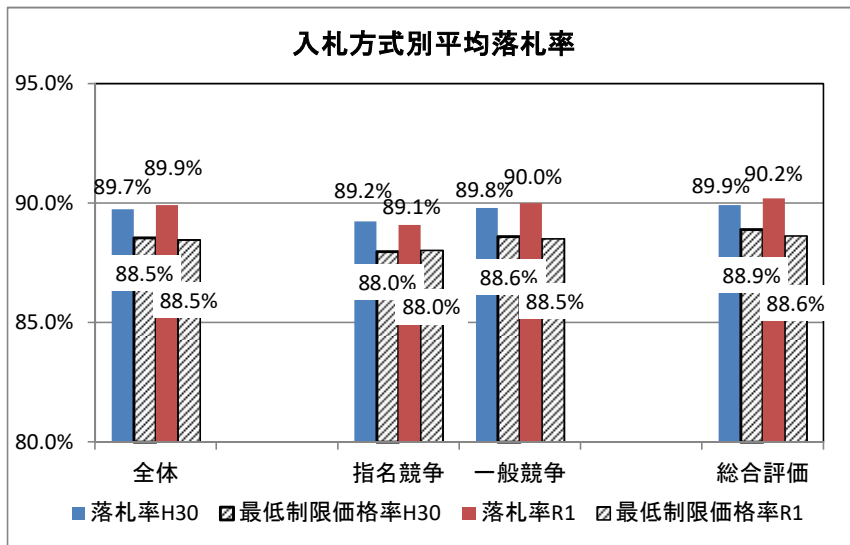
	平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	事前公表	事後公表	事前公表	事後公表	事前公表	事後公表
件数	812	272	862	333	854	383
平均落札率	89.0%	90.7%	89.3%	90.8%	89.4%	91.2%
平均参加者数	14.7	12.8	11.8	10.3	10.9	10.6
くじ発生率	70.3%	27.9%	63.0%	30.0%	53.9%	38.4%
失格発生率	51.4%	48.2%	32.5%	32.7%	29.4%	27.4%
平均失格者数	3.0	3.9	3.0	3.6	2.5	3.3

※対象：競争入札に付した予定価格が250万円超の建設工事（同期間内に契約したもの：紙入札を含む）

※平均失格者数：失格が発生した案件における失格者数の平均値

◆入札状況分析(1)

※()はR1.4~11



発注件数

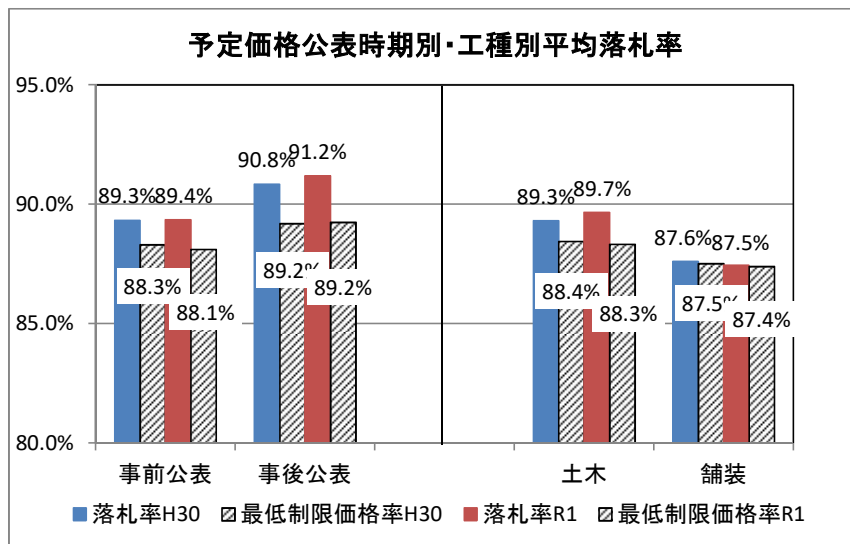
(H30) 1195件
↓ +42件(3.5%)
(R1) 1237件
(847)

落札率

(H30) 89.7%
↓ +0.2
(R1) 89.9%
(90.0)

最低制限価格率

(H30) 88.5%
↓ ±0
(R1) 88.5%
(88.4)

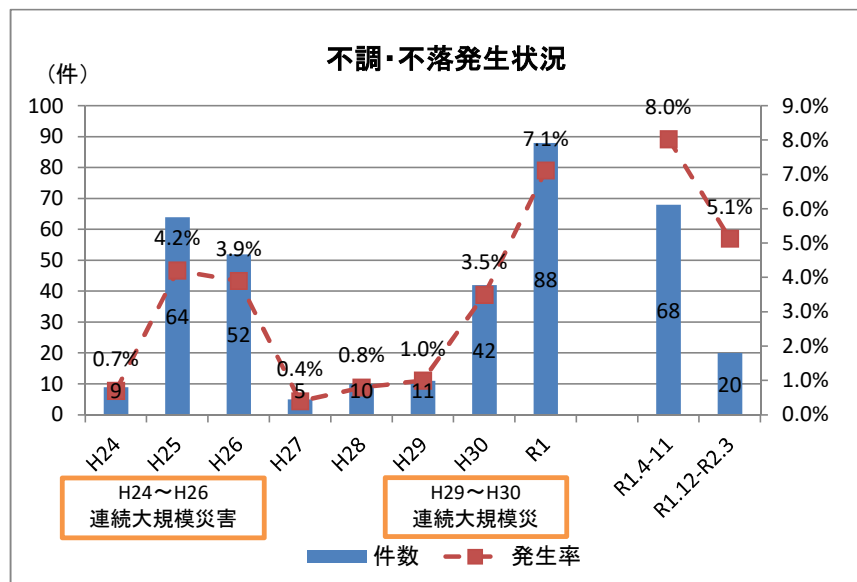


落札率(土木)

(H30) 89.3%
↓ +0.4
(R1) 89.7%
(89.9)

落札率(舗装)

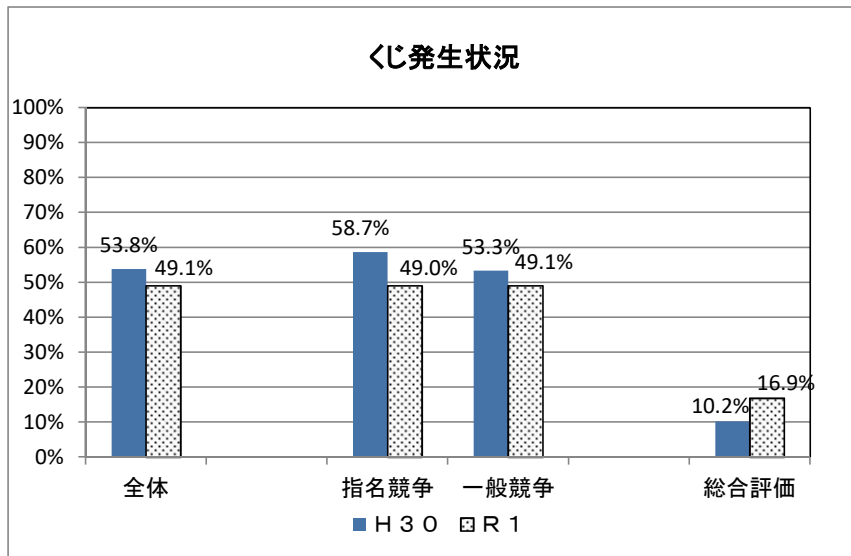
(H30) 87.6%
↓ Δ0.1
(R1) 87.5%
(87.3)



不調・不落状況

(H30) 42件, 3.5%
↓
(R1) 88件, 7.1%
(68件:8.0%)

◆入札状況分析(2)

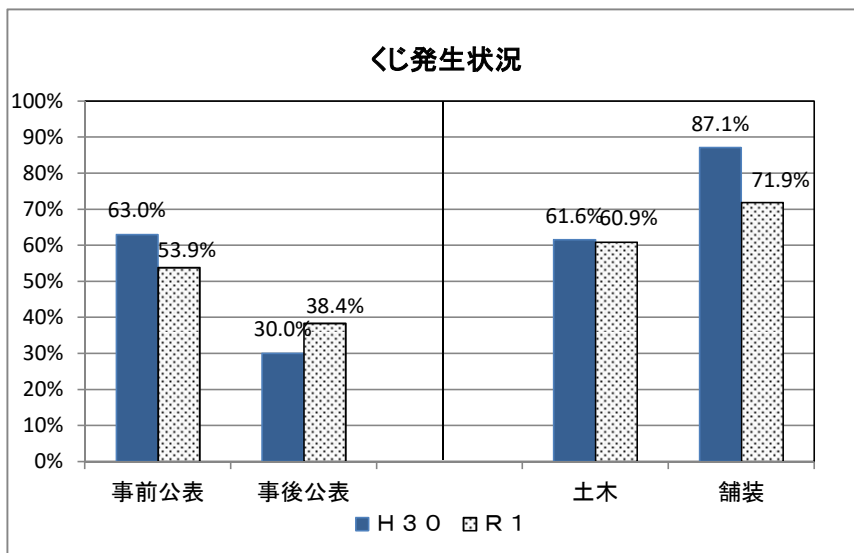


くじ発生率

(H30) 53.8%
↓ Δ4.7
(R1) 49.1%
(47.0)

くじ発生率(総合評価)

(H30) 10.2%
↓ +6.7
(R1) 16.9%
(12.2)



くじ発生率(土木一式)

(H30) 61.6%
↓ Δ0.7
(R1) 60.9%
(57.9)

くじ発生率(舗装)

(H30) 87.1%
↓ Δ15.2
(R1) 71.9%
(71.0)

《 考 察 》

- ・発注件数は前年比3.5ポイント増加
- ・落札率はわずかに上昇し、最低制限価格設定率は11月末時点の速報値ではわずかに低下したが、年度数値は変化なし
- ・最低制限価格との差は依然として小さく、最低制限価格付近での競争が継続
- ・特に、土木一式工事、舗装工事では引き続き激しい競争
- ・不調・不落の発生状況が増加傾向を続けているが、年度末にかけわずかに改善
- ・くじ発生率は舗装で約15ポイント低下したが、依然7割以上がくじという高い発生率
- ・総合評価及び事後公表で増加傾向

**測量等業務委託に係る
最低制限価格の設定後の入札状況**

	H26.4～H26.11	H29.4～H30.3	H30.4～H31.3	H31.4～R2.3
	最低制限価格なし	最低制限価格あり	最低制限価格あり	最低制限価格あり
件数	719	772	725	795
平均落札率	82.0%	86.5%	86.6%	87.1%
平均最低制限価格率	-	78.6%	78.6%	78.8%
平均入札者数	9.2	9.4	9.1	8.9
くじ発生件数(発生率)	10(1.4%)	106(13.7%)	129(17.8%)	174(21.9%)
失格発生件数(発生率)	1(0.1%)	62(8.0%)	55(7.6%)	49(6.2%)
平均失格者数 (失格発生案件における、失格者数の平均)	1	1.8	1.7	1.8
備考	失格1件は予定価格超過	最低制限価格の引き上げ(H29.4.1～)		最低制限価格の引き上げ(R1.5.1～)

※対象: 電子入札に付した全ての測量等業務委託案件

発注類型別一覧表

対象：予定価格250万円超の競争入札に付した建設工事

営業 所在地	類型 番号	発注工事内容	件数						
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
府内・府外	1	鋼橋やPC橋等の橋梁上部工や消化ガスタンク等の専門工事	19	20	14	11	9	12	5
	2	技術的難易度が高いトンネル工事	0	0	0	1	0	0	0
	3	法面処理等工事のうち特殊機械や専門技術を要するもの	27	25	21	12	9	7	13
	4	特殊機器(設計やシステム開発を伴うもの)の工場製作を含む設備工事及びその点検・修繕工事	114	116	95	110	82	96	88
	5	重要文化財建造物の保存修理工事のうち高度で特殊な技術を要するもの	18	16	13	20	22	27	20
	7	府内に施工できる企業がないか極めて少ない「個別」の工事	2	0	1	0	1	0	0
	8	WTO対象工事	2	1	1	1	3	1	1
小計			182	178	145	155	126	143	127
府内	9	施工可能な府内企業が少数であるが、府内企業のみに入札参加を認める工事	0	0	0	0	0	0	0
	空欄	従来の府内向け発注	1,348	1,151	1,092	1,042	958	1,052	1,110
合計			1,530	1,329	1,237	1,197	1,084	1,195	1,237
府内発注率			88.1%	86.6%	88.3%	87.1%	88.4%	88.0%	89.7%

公契約大綱に係る元請下請関係適正化実施状況調査結果

1. 調査対象工事数

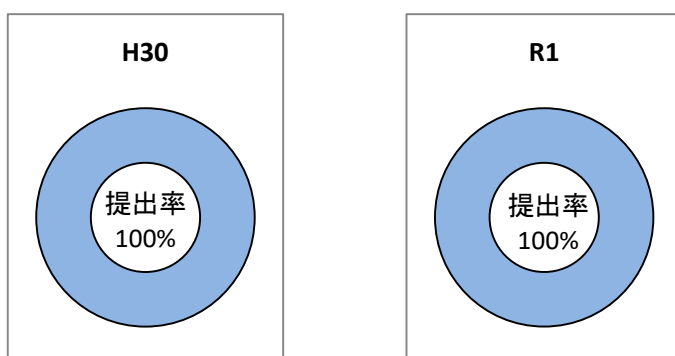
	H30	R1
対象全工事件数	1,503件	1,758件
うち下請契約をした工事件数	1,099件	1,304件

※各年度中に完成検査をした工事

2. 調査結果内訳

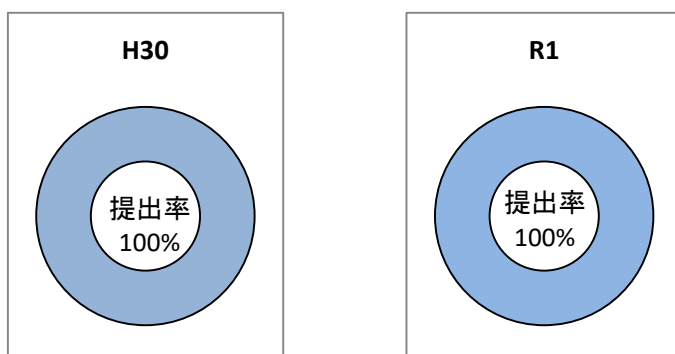
◇元下指針における遵守事項の実施状況について

(1) 施工体系図の提出状況 ※対象: 下請契約をした全ての工事



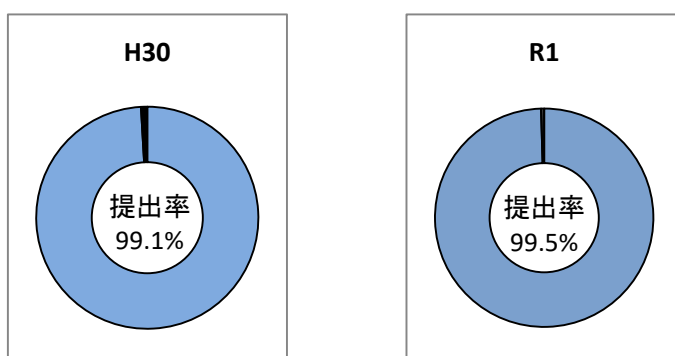
	H30	R1
提出対象件数	1,099	1,304
提出件数 (提出率)	1,099 (100%)	1,304 (100%)

(2) 下請契約書(写)の提出状況 ※対象: 全ての下請契約



	H30	R1
提出対象件数	4,187	6,191
提出件数 (提出率)	4,187 (100.0%)	6,191 (100%)

(3) 契約遵守窓ロステッカー提示状況 ※対象: 下請契約をした全ての工事



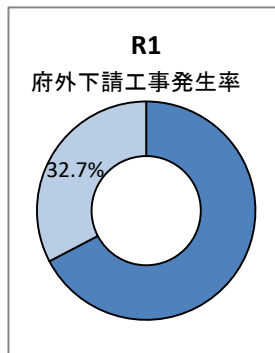
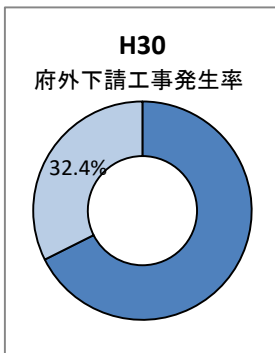
	H30	R1
提出対象件数	1,099	1,304
提出件数 (提出率)	1,089 (99.1%)	1,298 (99.5%)

(4) 所属におけるコンプライアンス対策の取組

各発注所属に入札コンプライアンス管理指導チームを設置し、接触制限に係る記録の確認、入札関係情報の管理状況等の点検・確認、検証を実施

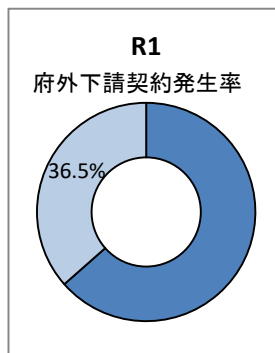
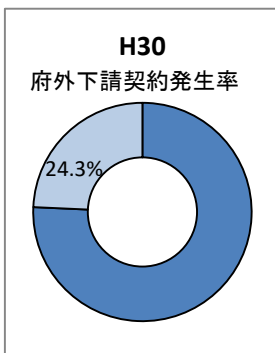
◇元下指針等における努力義務事項の実施状況について

(1) 府内企業への下請発注の徹底 ※対象: 下請契約をした全ての工事



	H30	R1
対象工事件数	1,099	1,304
府外下請発生工事件数 (発生率)	356 (32.4%)	426 (32.7%)

(2) 府内企業への下請発注の徹底 ※対象: 全ての下請契約



	H30	R1
対象の下請契約件数	4,187	6,191
府外下請契約件数 (発生率)	1,017 (24.3%)	2,260 (36.5%)

- 府外企業への下請発注が発生した主な理由
- ・特殊な技術を有する府内企業がなかったため
 - ・工程の都合上、府内業者を確保できなかったため

(3) 重層的な下請構造の改善 ※建築一式3次超、建築一式以外2次超

	H30	R1
重層下請発生件数	3件	14件

- 重層下請が発生した主な理由
- ・高度な専門技術を有する機械整備であり、繁忙期に知識を有する技術員を確保するため(汚泥スクリーン整備工)
 - ・認定工法のため、下請企業が特定されるが、当該企業がクレーンを保有していないため(クレーン工事)

3. (2) 公契約大綱の見直しについて

○公契約大綱見直しの概要

○公契約大綱

公契約大綱見直しの概要

大綱に反映させるべき新・担い手3法の内容	大綱「Ⅲ 府が取り組むべき内容」の項目	本文 <追加>	別紙(具体的取組) <追加項目>
働き方改革の推進	◎工事に従事する者の休日や必要な準備期間等を考慮した適正な工期の設定	◆工事に従事する者の休日や必要な準備期間等を考慮した適正な工期等を設定します。	(2)適正な工期を設定する取組 ○「建設工事における適正な工期設定等のためのガイドライン」に基づき、適正な工期で契約を締結する。 ○週休2日の現場閉所を行う工事を試行する。 ○契約締結後においても、設計図書に示された施工条件と実際の現場の不一致、予期せぬ特別な事態の発生など受注者の責によらない事由が生じ、必要と認められるときは、受発注者協議の上、設計図書の変更及びこれに伴って必要となる請負代金の額や工期の変更を適切に行う。 ○労働力や工事の資機材確保のため、受注者が一定の期間内で工事開始日を選択できるフレックス工期制度を活用する。
	◎翌年度にわたる工期の設定など必要に応じた取組による施工時期の平準化	◆翌年度にわたる工期の設定など必要に応じた取組により施工時期を平準化します。	(3)施工時期を平準化する取組 ○建設工事において繰越明許費や債務負担行為を活用し、翌年度にわたる工期設定を行う。 ○主な建設工事において中長期的な発注見通しを公表し、計画的な発注を行う。 ○測量等業務委託において発注見通しを公表し、計画的な発注を行う。
災害時の緊急対応強化	◎災害時における緊急性に応じた適切な入札及び契約方法の活用等	◆災害時等において緊急性に応じた適切な入札及び契約の方法を活用します。	(6) 災害時等における緊急性に応じた入札契約方法を活用する取組 ○災害時等においては、手続の透明性及び公正性の確保に留意しつつ、工事の緊急度や実施する企業の体制等を勘案し、災害応急対策又は緊急性が高い災害復旧工事等については随意契約を、その他の災害復旧工事等については指名競争入札を活用するなど、緊急性に応じた適切な入札・契約方法の選択に努める。 ○災害等発生後、一時的に需給がひっ迫し、労務や資機材等の調達環境に変化が生じ、積算に使用する価格と実際の取引価格が乖離しているおそれがある場合等においては、見積を徴取し予定価格を設定する。
生産性向上の取組	◎情報通信技術の活用等による生産性の向上	〔◆技術と経営に優れ地域に貢献する優良な企業を評価し、育成します。<既存規定>〕	(3)総合評価競争入札の活用 ○中長期的な公共工事の品質確保等のため、工事の性格や地域の実情等に応じ、若手技術者の配置等を評価する工事を試行する。
		◆情報通信技術の活用等により生産性を向上します。	(5)生産性向上の取組 ○情報通信技術の活用等により、工事に関する情報の集約化・可視化を推進し、受発注者間の情報共有システムの活用や検査書類の簡素化等により作業の効率化を図る。 ○施工段階における情報通信技術の活用を促進するため、ICT 活用工事を実施した受注者に対し、工事成績評定において評価する制度を試行する。

公契約大綱

はじめに

京都府は、公契約の発注者としての立場から、「公正な競争」、「地域経済への配慮」、「安心・安全の確保」のバランスがとれた入札契約制度を構築し、公共調達に求められる社会的要請に応えていく必要があります。

この公契約大綱は、そうした観点に立ち、公契約の基本理念とともに、発注者として主体的に取り組む具体的な内容を、府民の皆さんに分かりやすく示すものです。

これまでの京都府における入札制度改革の経緯を踏まえ、建設工事を中心として、具体的な取組を取りまとめました。

今後、社会経済情勢に即応して、柔軟に、かつ、迅速に見直していくこととしています。

(注)この大綱において「公契約」とは、京都府の代金支払いの原因となる府が締結する契約とします。

I 目的

この大綱に基づき、公契約の適正化を進めることにより、公契約に対する府民の信頼を確保し、府民福祉の増進及び地域経済の健全な発展に寄与します。

II 基本方針

公正な競争の下で公共調達を行い、地域経済の活性化や府民の安心・安全の確保を実現するため、次の事項を公契約の基本とします。

- ◇公正な競争並びに品質及び価格の適正の確保
- ◇入札及び契約の過程における透明性及びコンプライアンスの確保
- ◇談合その他の不正行為の排除
- ◇地域における雇用及び地域経済に与える効果への配慮
- ◇災害発生時における初期対応など地域の安心・安全の確保
- ◇技術と経営に優れ地域に貢献する優良な企業の評価
- ◇公契約からの暴力団排除の徹底
- ◇建設工事の技術力、施工能力を有しない不良不適格業者の排除
- ◇事業活動における社会貢献の促進

III 府が取り組むべき内容

上記IIの基本方針に基づいて、公契約の適正化を図るため次の取組を進めます。
なお、具体的な取組は別紙のとおりです。

1 健全な競争環境の下での適正な契約の確保

- ◆一般競争入札を基本に公正で透明な入札を実施します。
- ◆工事に従事する者の休日や必要な準備期間等を考慮した適正な工期等を設定します。
- ◆翌年度にわたる工期の設定など必要に応じた取組により施工時期を平準化します。
- ◆情報の漏えい防止など万全のコンプライアンス対策を実施します。
- ◆談合その他の不正行為を厳しく排除します。
- ◆最低制限価格算定基準の適切な見直しなどにより、行き過ぎた低価格競争（ダ

ンピング) への対応を強化します。

◆災害時等において緊急性に応じた適切な入札及び契約の方法を活用します。

2 地域経済の発展と優良な企業の育成の促進

◆府内企業（府内に本店を置く企業）への発注を原則とします。例外的に府外企業に入札参加を認める場合は、その理由について説明責任を果たします。

◆技術と経営に優れ地域に貢献する優良な企業を評価し、育成します。

◆情報通信技術の活用等により生産性を向上します。

◆災害対応などで地域の安心・安全に貢献する企業を優先する入札方式を実施します。

◆入札執行残分を地域の事業に還元します。

◆京都府暴力団排除条例に基づき公契約から暴力団排除を徹底します。

◆建設工事の入札参加資格審査から工事完成までのプロセスにおいて、不良不適格業者を排除します。

◆物品調達において、府内中小企業（府内に本店又は営業所等を置く中小企業）の振興に資するため、受注機会の増大を図ります。

3 下請負人へのしわ寄せ防止と適切な労働環境の確保

◆労働関係法令等の遵守を徹底します。

◆元請下請関係の適正化を推進するとともに、実効性を確保するための措置を講じます。

◆重層的な下請構造を改善します。

4 事業活動における社会貢献の確保

◆障害者雇用など社会貢献に積極的な企業を評価します。

◆環境負荷の低減に積極的な企業を評価します。

IV 公契約の相手方に求める内容

上記Ⅱの基本方針を踏まえ、関係法令の遵守の下で、公正な競争及び契約の誠実な履行を行うとともに、次の事項について重点的に取り組むよう求めます。

1 下請負人へのしわ寄せ防止と適切な労働環境の確保

◆労働関係法令等の遵守の徹底を求めます。

◆元請下請関係適正化指針の遵守を求めます。

・施工体系図等の提出及び再下請負人等への指導の徹底

・不適正事案における調査への協力

・下請重層化の抑制

2 事業活動における社会貢献の実施

◆障害者の雇用促進及び障害者等が働きやすい職場環境づくりを求めます。

◆防災等の地域の安心・安全活動への参加と協働を求めます。

◆事業活動に伴う環境負荷の低減を求めます。

V 評価・検証による改善

本大綱の取組については、第三者委員会による評価・検証を行いながら、PDCAサイクルを実施し、社会経済情勢に応じ、柔軟に、かつ、迅速に見直しを行っていくこととします。

【別紙】

1 健全な競争環境の下で適正な契約を確保する取組

(1) 透明性、公平性、競争性を確保する取組

- 一般競争入札を基本とし、予定価格1,000万円未満の建設工事は、原則指名競争入札とする。
- 建設工事の一般競争入札では、応札可能者数が概ね30者以上となるよう入札参加資格要件を定める。
- 建設工事の指名競争入札では、概ね20者を指名し、指名理由を公表する。
- 入札事務を発注組織から分離するとともに、公契約の適正化、入札契約制度の運用管理の一元化を段階的に実施する。
- 建設工事について電子入札を全面的に実施する。

(2) 適正な工期を設定する取組

- 「建設工事における適正な工期設定等のためのガイドライン」に基づき、適正な工期で契約を締結する。
- 週休2日の現場閉所を行う工事を試行する。
- 契約締結後においても、設計図書に示された施工条件と実際の現場の不一致、予期せぬ特別な事態の発生など受注者の責によらない事由が生じ、必要と認められるときは、受発注者協議の上、設計図書の変更及びこれに伴って必要となる請負代金の額や工期の変更を適切に行う。
- 労働力や工事の資機材確保のため、受注者が一定の期間内で工事開始日を選択できるフレックス工期制度を活用する。

(3) 施工時期を平準化する取組

- 建設工事において繰越明許費や債務負担行為を活用し、翌年度にわたる工期設定を行う。
- 主な建設工事において中長期的な発注見通しを公表し、計画的な発注を行う。
- 測量等業務委託において発注見通しを公表し、計画的な発注を行う。

(4) コンプライアンス対策の取組

- 情報漏えいの未然防止のための取組を行う。
 - ・「建設工事等の発注事務等に関する京都府発注担当職員行動指針」を定め、発注担当職員と事業者等との接触を制限する。(業務上必要な場合を除き接触を禁止、業務上必要な場合も決められた場所以外での接触を禁止、業務上の打合せ等は原則複数職員で対応し記録)
 - ・発注担当職員以外の入札情報(設計額、予定価格等)へのアクセスを制限する。
 - ・決裁ルートを必要最小限とする。
 - ・最低制限価格の算定において補正係数を導入する。
 - ・「建設工事等の入札情報に関する問い合わせ等に係る取扱要綱」を定め、問い合わせ内容について記録し、所属長への報告を義務付ける。(非公開情報の不正な聞き出し等は入札コンプライアンス管理指導者に報告)
 - ・非公開情報の不正な聞き出し等については公表し、当事者を指名停止措置とする。
 - ・電話録音機を導入する。
- 組織的な管理運営を行い、高いコンプライアンス意識を醸成する。
 - ・建設工事の各発注所属に入札コンプライアンス管理指導チームを設置し、接触制限などの取組の実施状況を点検し、職員指導を徹底する。
 - ・各部局に入札コンプライアンス管理指導者(発注に係る決裁に関わらない者から選任)を設置する。
 - ・高いコンプライアンス意識を持った組織づくりを行う。(管理指導チームによる職員指導、階層別入札契約担当者向けの研修実施、コンプライアンス相談員や内

部通報制度の活用)

- 不正事案に対する厳罰化（ペナルティ強化）を図る。
 - ・贈賄、談合及び非公開情報の不正な聞き出し等に対しては、指名停止期間を大幅に延長する。（最大36箇月）
 - ・懲戒処分の対象となる行為を明確化する。

(5) ダンピング対策の取組

- 公募型プロポーザル方式や公募型コンペ方式を活用する。
- 最新の中央公共工事契約制度運用連絡協議会の価格算定モデル式に現場状況を反映させた最低制限価格算定基準を採用する。
- 建設工事の積算内訳書チェックを厳格化する。
- 建設工事の一部で予定価格の事後公表を試行する。
- 建設工事の低入札価格調査制度を検証し、見直す。
 - ・低入札調査基準価格を下回った場合は、厳格な調査を実施し、その結果を踏まえ制度の見直しを検討する。
- 測量等業務委託について、国の算定式に準じた最低制限価格を設定する。

(6) 災害時等における緊急性に応じた入札契約方法を活用する取組

- 災害時等においては、手続の透明性及び公正性の確保に留意しつつ、工事の緊急度や実施する企業の体制等を勘案し、災害応急対策又は緊急性が高い災害復旧工事等については随意契約を、その他の災害復旧工事等については指名競争入札を活用するなど、緊急性に応じた入札・契約方法の選択に努める。
- 災害等発生後、一時的に需給がひっ迫し、労務や資機材等の調達環境に変化が生じ、積算に使用する価格と実際の取引価格がかい離しているおそれがある場合等においては、見積を徴取し予定価格を設定する。

2 地域経済の発展と優良な企業の育成を促進する取組

(1) 府内企業への発注の徹底

- 地域経済に配慮し、施工できる企業が府内にないか、極めて少数の場合を除き、原則として府内企業に発注する運用を徹底する。例外的に府外企業の入札参加を認める工事は、別途第三者委員会でチェックし公表する。
 - ・WTO案件や特殊・専門工事で施工できる企業が府内に無いか、極めて少数なことが客観的に明確なもの（第三者委員会で該当工事の類型を事前に審査）については、実施状況を第三者委員会へ報告する。
 - ・上記以外で、府外企業の参加を認めようとする場合は、第三者委員会で審査する。
- 下請負先を府内企業とするよう要請し、府内企業の下請比率に応じた工事成績評価を実施する。
- 府外企業への下請負については、理由書を徴取する。

(2) 技術と経営に優れ地域に貢献する優良な企業の評価

- 建設企業の格付けにおける主観点で加点する。
- 優良な企業にインセンティブが働く等級区分及び発注標準を設定する。
- 特に府民生活に身近な工事については、地域に精通した企業による入札を試行する。（応札可能者数が不足する場合は上位ランク企業を参加可能にし競争性を確保）

(3) 総合評価競争入札の活用

- 地域貢献の評価項目を充実し、評価点を細分化する。

- 災害対応等で地域貢献する企業を優先する入札方式を試行する。
- 中長期的な公共工事の品質確保等のため、工事の性格や地域の実情等に応じ、若手技術者の配置等を評価する工事を試行する。

(4) 事業費の入札執行残分の有効活用

- 建設工事の事業費について入札執行残分を地域の事業に還元する。

(5) 生産性向上の取組

- 情報通信技術の活用等により、工事に関する情報の集約化・可視化を推進し、受発注者間の情報共有システムの活用や検査書類の簡素化等により作業の効率化を図る。
- 施工段階における情報通信技術の活用を促進するため、ICT活用工事を実施した受注者に対し、工事成績評定において評価する制度を試行する。

(6) 暴力団や不良不適格業者の排除

- 下請負契約等も対象として、公契約から暴力団排除を徹底する。
- 立入調査や現場点検などの厳格な実施により、不良不適格業者を排除する。

(7) 物品調達における府内中小企業の受注機会の増大

- 物品のうち、官公需法に基づく中小企業官公需特定品目の調達において、経済性を考慮した上で、府内中小企業に限定した入札を実施する。

3 下請負人へのしわ寄せ防止と適切な労働環境を確保する取組

(1) 元請下請関係の適正化

- 労働関係法令等の遵守を契約（下請契約を含む）に明記する。
- 「京都府が発注する建設工事に係る元請下請関係適正化及び労働環境の確保に関する指針」を定め、その遵守を契約で義務化する。
 - ・発注所属毎に契約遵守窓口を開設する。
 - ・全ての工事で施工体系図と下請契約書の写しの提出を求める。
 - ・正当な理由なく府の指示に従わない場合は、契約の解除、指名停止等の措置を講じる。
 - ・関係機関（関係法令の処分権限者）との連携を強化する。

(2) 重層的な下請構造の改善

- 特殊で専門的な工事を除き、下請負は、土木工事で2次まで、建築工事で3次までとすることを義務化する。
 - ・重層化する場合は、理由書及び労働者の賃金水準や下請けの内容が適正であることが分かる書類の提出を求め、法令遵守の徹底を図る。

4 事業活動における社会貢献を確保する取組

(1) 障害者雇用等に積極的な企業の評価

- 障害者雇用、消防団への協力、ワーク・ライフ・バランスへの取組など地域貢献を行う企業から物品を優先調達する。
- 建設企業の格付けにおける主観点で加点する。

(2) 環境負荷の低減に積極的な企業の評価

- グリーン入札（環境配慮企業からの物品の優先調達）を推進する。
- 建設企業の格付けにおける主観点で加点する。